

半導体エネルギー変換工学特論

機械電子創成工学科専攻

秋田研究室 21P2033 山田竜輝

私が好きな物語はキセキ-あの日のソビト-（映画・小説）です。

理由に関して、主人公歯科大学生のヒデが、将来何をやりたいのかを決定するにあたり、自分の本当のやりたいことを見つめなおし、歯医者になるのか音楽グループを目指すのかの2択で、進路決定するまでの葛藤物語がすごく私の心に刺さったからです。また、主人公ヒデが決めた道を後悔なく進んでいる姿に、自分もそのような人になりたいと思ったからです。

物語の主な内容は、現在5人組で活動している音楽グループ Green ができるまでの成り立ちが書かれた物語です。Green の成り立ちに関して、メインボーカルのヒデと作曲家であるヒデの兄が中心となって Green ができたという形になっています。

ヒデの兄に関して、Green が成り立つ前にバンドでメジャーデビューをしていました。しかし、兄がやりたい音楽と音楽プロデューサーがやって欲しい音楽が噛み合わない問題が発生し、バンドが解散になってしまった経緯があります。また、兄の音楽活動を父親がかなり反対していたということもありました。理由は、父親が医者で将来息子たちには人々を助ける（世の中貢献）仕事に就いてほしいと思っていたからです。

ヒデに関して、歯科大学生であり、将来歯医者になるために日々勉強しているのですが、実は音楽がものすごく好きで、心のどこかで将来音楽活動したいと思っていました。しかし、父親が将来音楽を仕事にすることに関して反対的であり、そのことが原因で、自分の進路に対して少し素直になれない部分がありました。大学生活中にたまたま音楽好きなメンバー（現在の Green メンバー）が集まり、仲が深まっていくうちに、ヒデが曲を作りたいと言い出します。ヒデが詞を書き、作曲をヒデの兄にお願いするようにしようと計画します。兄は、ヒデに「いいよ、作曲してやる。」と許可を得たものの、「本当は将来歯医者ではなく、音楽をやりたいんじゃないのか？」と質問されます。しかし、ヒデは、「音楽はお遊びだから」と少し暗い顔をして去っていく。そこから曲がレコード会社に採用されるようになり、Green として知名度が上がっていく話となっています。

私の個人的なシーンがヒデと兄が喧嘩するシーンです。特に兄がヒデに送るメッセージとして、「お前の人生本当にそれでいいのか、人生後悔しないのか、自分の人生自分で決める」というメッセージに心をうたれました。

喧嘩内容に関して、ヒデがいきなり音楽をやめるというのを兄に伝え、兄は「本当にそれでいいのか、人生後悔しないのか、自分の人生自分で決める」という内容です。

ヒデが音楽をやめたい理由は、勉強にかなり影響していることが原因で、音楽活動をしてからテストの成績がかなり悪化している状況だからです。それを父親が把握し、「今自分にとって何が大切かをしっかり考えろ」と怒られたことも原因でした。そこから音楽は遊びだし、もうやめた方が良くいとヒデが判断し、兄に伝えました。

兄側として、がむしゃらに作詞しているときや楽しそうに歌っている姿を見て、やめるのはもったいないと判断したんだと思います。また、父親にびびって音楽活動をやらないということなのではないかと考え、喧嘩につながり、自分の人生自分で決めろということを本気で伝えたかったのではないかと思います。そこからヒデはもう一度自分の人生のことを考え、歯医者になるのか音楽活動を続けるのかを決断していくことになります。

この喧嘩シーンから私は、自分の将来は自分で決める必要があると改めて考えさせられました。今就職活動している上で、いろんな人達（友達や就職課など）がこの企業は良いよとか、ここの業界がこれから伸びるなど、人からの説明などを受けて就職活動してしまっている状態です。

そうではなく、自分が本当にやりたいことを把握、そしてやりたいことを軸に就職活動していく決断を大切にしていける必要があるのではないかと思います。また、決断する勇気が今後大切になってくるのではないかと思います。

ですので、自分の将来を決断するにあたり、自分が本当にやりたいことを再度見つめ直し、それが実現できるかどうかは考えないようにしたいと思います。なぜなら、それを考えてしまうと恐怖心で前に進めないためです。そして、Greenのように自分が決めた道を胸張って進めるようにこれからの進路を決めていきたいと思っています。